

緑肥用 超極早生種

ライムギ

カールトライ



特性・利用方法

- 早晚性は“超”極早生ですが、「ダッシュ」と比べますとやや遅いです。
- おとり植物として、アブラナ科根こぶ病菌の菌密度低減効果があります。
- 早期にすき込みが出来るので「後作の播種」や「定植」が余裕をもって行えます。
- エンバクよりも低温伸長性に優れるので寒高冷地での8～9月まき年内すき込みでも多くの乾物量が得られ緑肥利用に適します。
- ライムギの中では「耐寒性」・「耐雪性」がやや劣りますので寒高冷地での越冬利用には適しません。
- 冬場の障壁としての利用もおすすめします。

播種量

8～10kg/10a (防風利用：1～2kg/10a)

播種期

冷涼地：4/下旬～6/下旬、8/中旬～9/下旬

暖地・中間地：

3/月上旬～4/中旬、9/中旬～11/中旬

※すき込み目安は、草高1m～1.5mです。



2023.9.27 播種 (写真 2024.1.11) くになだ育種農場



根張りに注目！根域は深く広い



アブラナ科根こぶ病菌密度低減試験

【試験概要】試験区設定及び供試品種：

「カールトライ」、「ライムギ他品種」、「アブラナ科品種」、休閑の4試験区3反復
汚染土作成：休眠孢子数が10⁶個(100万個台)/g乾土調整。3.5号ポット試験
菌密度測定：アグロ カネショウ(株)、測定にはreal-timePCRを用いた。

【耕種概要】栽培期間：2023年10月5日～11月14日(40日)

栽培場所：くになだ育種農場内 無加温ハウス

【結果・考察】栽培後の休眠孢子密度減少率を比較し、「カールトライ」とおとり効果を有する市販ライムギ品種は同等と判断できる。

3反復平均	初期密度	栽培後密度	減少率
ライムギ他品種	1,400,000	564,582	60%
カールトライ	1,400,000	669,640	52%
アブラナ科品種	1,400,000	1,034,596	26%

